



第 34 号

編集・発行
 富士見市日中友好協会
 富士見市鶴瀬西
 2-8-8-601
 (049) 251-5604
<http://www.jc-sf.com/>

上陽小学校訪問と西安の旅

2016年5月17日(火)
 ~5月22日(日)

上陽村希望小学校の子どもたちと会って 加藤 久美子さん



今も子どもたちの懸命に竹とんぼを飛ばす真剣な表情や笑顔思い出します。

遠来の言葉を介さない大人に歓迎の一途な思いが伝わってきます。一回目の訪問の時から低学年を担当されてきた地元に住む女性教師から「ああ、また来てくれましたね」と表情と予期せぬ握手が語りかけてくれました。こんな時に日常会話レベルでいいから話せたらともどかしくなります。

更に嬉しいことに、卒業生の男性が待っていてくれたことです。一回目の訪問団を記憶してくれていました。今は、ホテルマンで、



時々、村に帰ってくるそうではにかんだ笑顔に昔の記憶を蘇らせました。

皆が期待していた富士見市の子どもたちの様子を撮った動画ができず残念でした。子どもたちには次回まで楽しみに、是非また行きましょう。



**恭賀新禧！
 春光明媚！**

富士見市日中友好協会
 会長 加藤 孝一

二〇一七年の年頭にあたり皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。世界の政治情勢はめまぐるしく予期せぬ変革と事象に直面、不安と期待が錯綜する中新年を迎えました。去る一月二〇日ペルーリマで開催中のAPEC首脳会議の合間に安倍首相と中国の習国家主席が会談し日中関係の改善に引き続き努めることで一致した。主席は懸案を適切に処理し国民感情を醸成し両国の関係改善と発展に関する中国の原則的な立場を表明された。融和進展の為、実践躬行を真に希求します。今年には日中国交正常化四五周年、人的往来は益々旺盛になり相互理解が更に深まると期待します。当協会は上陽希望小学校友の会と連携、体制の強化を図り、以って会員相互の親睦を主眼として日中両国の友好に資する活動に邁進致します。本年も皆々様の温かいご理解ご協力を切にお願いしてご挨拶と致します。 謝々



第30回総会と新春のつどい

2016年2月7日(日) 針ヶ谷コミュニティセンター

総会は、埼玉県日中友好協会の橋本清一事務局長を来賓として迎え新年度の事業を決めました。

新春のつどいは、星野信吾市長はじめ今年も多く参加者を迎えて行われました。恒例の富士見太鼓の勇壮な演奏に続き、三芳町を中心に活動しているビッグバンド「ジョイフル・サウンド・ジャズオーケストラ」による日本や中国のなじみ深い曲が演奏されました。演奏後のパーティでは、会場全体に参加者の交流の輪が広がっていました。



▲最適な演奏を聞かせてくれたジョイフル・サウンド・ジャズオーケストラ

富士見市国際友好協会総会

2016年5月14日(土) 針ヶ谷コミュニティセンター

総会には、当協会から加藤孝一会長はじめ10名の会員が出席しました。会議では、当協会が5月に派

遣する「富士見市民友好訪中団」の支援も決められました。

その後の里子を訪ねて

2016年5月19日(木)～5月22日(日)

事務局長 中島 正也

1990年代、中国で「義務教育を受ける」という基本的権利を享受できない子供が多くなっていた。そこで「経済的に富める者が貧しい子を助ける」という「希望工程」事業が始められた。それは貧困地域の未就学児をなくし、小学校を改新築するものであった。

1996年、埼玉県日中友好協会がこの事業に賛同し取り組みを始めた。続いて県下の各地区協会も支援活動を始め、当協会も1997年に事業の趣旨を市民に訴え募金活動を始めた。

1998年、山西省五台县の上陽村に「日中友好富士見・上陽希望小学校」の建設を始めた。1999年6月に開校式、その秋から授業が始まった。

この支援活動と並行して取り組んだ、貧しくて就学できない「失学児童支援」事業にも会員と市民から多額の募金が寄せられた。募金は一口6000円、それは児童一人が小学校を卒業するまでの金額。そして援助者を「里親」、受けた児童を「里子」と呼んだ。

この支援活動は1997年から2007年まで続いた。当初は山西省の各地に及んでいたが、1999年から臨県に支援するようになった。この10年間に、里親132名、臨県の約60村の60小学校で225名が里子になった。

2016年はこの支援活動が終了して10年目となる。そして支援を始めてから約20年がたったいま、最年長の里子は23～4歳か、最年少は15～6歳になり、社会生活を営んでいる年代となっている。協会はこの時期に臨県の村と学校を訪問し「その後の里子」の状況を調査することにした。

5月17日に協会が派遣した「富士見市民友好訪問団」の上陽希望小学校訪問の後、私が一人で臨県に行った。

5月19日、臨県城内の新民大酒店で共青团の李書記と打ち合わせの後、県城から近い村の小学校から順に訪問し調査を始めた。

短期間の調査であったが、約15村と24の学校を訪れた。訪問できた小学校の先生と生徒、それに村人

の協力で何人かの里子の消息を知ることができた。どの学校でも里子を知っている先生は少なかったが、皆この援助が無ければ子供は学校に行けず、一生文盲で終わったかも知れないと感謝していた。今でも臨県は対日感情が良くないと言われているが、訪問した何処の村でも学校でもみな好意を持って対応してくれ、里子を探してくれた。訪れた学校の周りに集まってくる村人の中には、以前この地の学校を訪れた時のことを知っている人もいて、どの地に行っても感動の連続であった。

この調査の後、協力してくれた臨県政府と共青团は、当協会の友好活動が継続していることに感謝し、更なる発展を願っていると挨拶された。

5月22日まで四日間の詳しい調査の内容とその状況や感想など交えた話は、この8月から協会のホームページの「山西省四方山話」欄に掲載中です。



▲2000年9月堯子坡小学校訪問。里子と呂引弟校長（後列左から2人目）と。



▲2016年5月20日堯子坡小学校は幼稚園になっていた。前校長の呂引弟校長（左から2人目）と。



▲2016年5月21日廃校となった西頭小学校の里子を、隣接する中学校の先生に尋ねる。



▲2016年5月21日東坡小学校に里子を訪ねる。先生と村の人たちと。



▲2016年5月21日東坡小学校で。馬靖宇さんより村の人に里子の消息を聞く。



▲2016年5月22日高家湾小学校で児童に土産の鉛筆をプレゼント。



▲2016年5月22日槐樹坪小学校の里子を村の人に尋ねる。

妻への家路 ～中国映画会～

2016年7月3日(日) 鶴瀬コミュニティセンターホール



「妻への家路」を観る 針ヶ谷 宇田川 治宣さん

心に沁み入るような物語だった。

文化大革命のさ中、追放先を脱走して妻娘に逢いに来る夫。家族を守るため父を密告する娘。警官に追われる夫に懊悩した挙句娘を拒絶し、果ては心を病むに至る妻。そして文革後漸く帰郷した夫を知人とししか認識できず、只管夫の書き残したメモの期日に駅頭に待つ妻に、夫は凡ゆる手を尽して記憶を呼び戻させようとするが徒労に終る。そして遂に夫は古手紙に事寄せて妻を娘と和解させ、自らは帰郷を待ち侘びる妻に寄り添うことで辛うじて心の平安を得る。二人の名優が演じた「心の旅路」は、私達に、そして世界中に深い感動を残したのだった。

富士見市国際交流フォーラム

2016年9月24日(土) 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

今回も太極拳教室が48式太極拳、32式剣、太極扇
3種目を表演しました。

ふじみ篆刻協会は体験コーナーで参加し、30人ほ

どが体験を楽しんでいました。

上陽希望小学校友の会は、5月の上陽小学校訪問
を中心に展示部門に参加しました。

鶴瀬西交流センターフェスティバル

2016年10月1日(土)～2日(日) 鶴瀬西交流センター

太極拳教室は今年も2日(日)
の舞台発表に出演し、48式太極
拳の2段までと、32式剣そして
太極扇の3種目を発表しまし
た。

また、ふじみ篆刻協会は1日、
2日の2日間、毎年好評の体験
コーナーと作品の展示などで参
加しました。



▲大勢の観客を前に表演

会員交流会 『芋掘り』

2016年10月2日(日) 三芳町上富

昨年春のいちご狩りに続く会員交流事業の第2弾
は、歴史ある三富(さんとめ)地域の一角、上富(か
みとめ)地区の畑での芋掘り。ここのサツマイモは、

古くより「川越芋」として江戸でも評判が高いもの
でした。



▲広々とした畝で芋掘り

三芳町主催、第6回芋掘りまつりに参加して

鶴瀬西 飯野 勝代さん

富士見市日中友好協会も事業として参加されているとの事、「2株
500円」まとめて購入したので是非とお知り合いの大野さんへお声を
かけて下さったとの事。急なお誘いでしたが4名で参加しました。

実行委員会の挨拶の後、早川農園へ。畑は幅70メートル、長さ700
メートル。初めての風景と、子どもから大人まで800名という参加者
の多さに二度の驚き。また埼玉テレビの撮影の方もカメラを肩に。農
道に沿って一列に区分けされている2株500円で購入した期待の株の
前へ。芋掘り始めと気合を入れ、大小連なる芋に悪戦苦闘!! 小学2
年生の男の子からお手伝いを頂き、手についた脂を眺め、“さつまい
も”って買って食べるのが当たり前だった私。2人だけの家族には多
い量でしたのでご近所へ御裾分け。青空のもと、楽しい一時をありが
とうございました。

埼玉県日本中国友好協会主催 第37回中国語発表のつどい

2016年10月16日(日) 浦和コミュニティセンター

理事 田口 和平

2016年10月16日第37回埼玉県日本中国友好協会主催の中国語発表会が開催されました。多くの参加者の中、富士見市からは2名が参加し、竹之内香保里さんが中国語講座受講1年ながら努力が実り奨励賞を受賞されました。

竹之内さんが「開かれた扉」と題した内容は、リオオリンピックについての中国選手の表彰式でのプロポーズ、日本選手水泳400mリレーの銀メダル受賞に中国選手も素直に祝福、その他今までにない行動や言動がかつて見たことがないと、竹之内さんは自身の塞がれた心の扉が開いた瞬間を感じたと、写真を交えて発表されました。又審査の教授からは共に参加した受講3ヶ月の佐藤さんには総評の中で富士見市協会侯老師の指導のもと、短い期間ながらも発音等のお褒めの言葉をいただきました。

(発表記事は協会ホームページ記載)



▲奨励賞受賞の竹之内香保里さん

中国語発表の集いに参加して 佐藤 素能子さん

「空の巣症候群」にはかかるまい。末の子の独立を前に心のバランスを保つ為に以前より興味があった中国語を学ぼうと思いました。この歳で一から語学を始める事に迷いはありましたが、侯先生と生徒の方々の「雑談」は新鮮で発見が多く、入会を決めました。

五行程の中国語日記を添削頂いた時に先生からこれをテーマに「中国語発表のつどい」に参加してはとのお話を頂きました。学習汉语、学了三个月！勇気をもって参加を決意・先生が整えて下さった文章を読み、録音した先生の声を繰り返し聞きました。先生からは「声調・そり舌音を正しく発音しましょう。写真など伝え易い手段も有効です」と助言を頂きました。共に発表に臨む竹之内さんの声や表情がとても勉強になりました。

発表当日はトップバッターで緊張しましたが、先生、田口さん、中島さん、竹内さん、竹之内さん、夫の応援が力になり無事に発表ができました。



▲中央が佐藤素能子さん

「久々の精一杯」の体験でした。そして竹之内さんの入賞は深い喜びでした。高校生の中国語劇や留学生との交流等、つどいの内容はとても豊かで楽しめました。

この貴重な体験で中国が少し身近になりました。今後も教室での勉強を頑張ります。

中国料理教室

2016年11月23日(水)
鶴瀬西交流センター

料理教室に参加して
坂ノ上 俊幸さん

初めて料理教室に誘われて参加いたしました。まずは「千層油餅」。グループごとに下ごしらえに入っていた、私の役目は長ネギのみじん切り、茹でたほうれん草も切った。もやしは何でひげを取るんだろうと思っていたら見映えが大事とのことだ、長ネギは「もっと細かく切って」と言われてしまった。「中華サラダ」「中華スープ」などメモを見ながらなんと



か出来上がった。「千層油餅」を重ねることはそばで見ていただけだが、焼くことができた。失敗しながら何度か焼

いているうちに上手にできた。思えば料理を作るのは独身の時以来だ。大変楽しい時間を過ごしましたが、次は自分一人で作ってみようと思った。勉強になりました。ありがとうございました。



★レシピは富士見市日中友好協会のホームページ www.jc-sf.com をご覧ください。

日中文化交流講座

中国語を学びながら、日本と中国の文化を考えます。中国語初挑戦の方、大歓迎!!

日 時 月3回(火曜日) / 2017年度は4月11日(火) 開講

入門クラス 午後5:00 ~ 6:45

初級クラス 午後7:00 ~ 8:45

会 場 鶴瀬駅西口サンライトホール

会 費 月 4,000円

入会金 2,500円(日中会員は不要)

コーディネーター 侯紅葉さん

お問合せ 田口 (049-254-5762)

太極拳教室

まるで宇宙遊泳を思わせるようにゆったりとした動きの太極拳は、内臓のマッサージ効果があるといわれています。

日 時 毎週 金曜日

午後7:00 ~ 9:00

会 場 鶴瀬西交流センター

会 費 月 2,000円

お問合せ 中島 (049-251-5604)